あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 66 号

発行日
2025.12. 30
編集・発行
井上講四／堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
（井上講四宅）
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○一年を振り返る！身体的には惨憺たる日もあったが…

今年も、いよいよ終わりである！例年のように？様々な出来事があったが、残念ながら、ここでは、その具体を挙げることが出来ない（忘れている？）！否、そのつもりもない（思い出さなければいけないことがあれば、その都度、そうすればよいだけである？）！だが、やはり、自分自身のことは振り返っておきたい（実は、そのためにここでの記事も書いている？）！

まず、世間的には、真に哀しい、かつ信じられないような事件・事故等もあったが（自然災害、戦争も！）、私的には、教え子、友人・知人との再会、ネット上で見つけた心温まる風景、期待される取り組み、スポーツ観戦等に、楽しさと喜びを感じながらの日々であったことは言うまでもない！

だが、そんな中、超私的な？事ではあるが、基本的には年に一度（お盆休暇中）、我が家は全員での再会を果たすのであるが、今年は、それに加えて、珍しく、それぞれ（三人娘の居住地で再会を果たしたことになる！さらには、私の兄弟達（兄二人）、そして義兄妹達（二組）とも、それぞれに再会を果たした！そこでは、主たる目的が、それぞれにあったわけであるが、現在の互いの生活振りを確認する（再会を喜び合う？）機会ともなった（一つだけ複雑な事情もあったが！）。そして、やはり、こうした身内関係は貴重なものであり、しかも不可避的なものであることも、実感させられた次第である（普段は、それぞれ忘れたように、お互いは生活している？）！

ちなみに、今月前半、実に久し振りに風邪を引いてしまった（5年、否、それ以上振り？）！幸いにも鼻風邪であったが、不摂生もあり、直りが遅かった（そのせいで、惨憺たる日もあったが、今となっては、これもまた思い出深きものである？笑）！

○そこでもう一つ！否が応でも蘇る過去、我が青春⁉

そこで、ここではもう一つ書き記しておきたいことがある！それは、上記とも関係するが、幾つかの再会が、否が応でも遠き過去、我が青春時代を思い出させるものであったということである！そんなことは当たり前だと言われるかもしれないが、今年は、特にそれが顕著であった！すなわち、今年は、私の大学（学部）時代の卒業同期（一年ズレているが！）との再会（50年振り）、大学院時代の先輩Oさん（現在某大学の学長、来沖の際）、東京時代の職場同僚のSさん（沖縄への移住）、高校時代の別の同級生達（彼らの沖縄旅行）、そして、そこから波及したクラスメートK君（東京在住。彼とは、電話とメールによる）との再会がそれである（他にもあったかもしれないが？）！

とにかく、それらが、忘れていたことや思い出したくないことも、懐かしさと同じくらい多々あったが、それこそ疾風怒濤の、否、多感な青春の日々の苦悩を、懐かしく思い出させてくれたわけである（彼らには申し訳ないが、正直言って、それぞれの当地での日々は、懐かしさというよりは、後悔、否、あまり思い出したくないという気持ちの方が大きい？）！自業自得と言えばそれまでであるが、彼らと過ごした時間や場所が、何故か私にとっては、あまり芳しいものではなかったのである（ただし、もちろんそれは、彼らのせいではない！偏に、自らの為せる業の所為である？）！

だが、今となっては、そういうことも、すべて「昔の話」である！みんな容貌も変わっていた！そして、それぞれの今を生きている！その姿こそが、その関係に新たな意味をもたせるのである（これもまた終活の一コマ？）！

○改めて、教育協働研究所としては？期待と不安の交錯⁉

そこで、ついでにここでは、改めて、「教育協働研究所」としてはどうであったのか？それについても、少し触れておきたい！もちろん、これについては、我がホームページ上に、その活動の一端を逐一報告しているが（新たな報告ツールも活用して！）、まだまだ十分とは言えない（欲張り？と言われそうであるが？笑）！

ただし、その一環として行ってきている「（沖縄）教育協働アカデミー」については、何人かのコアメンバーの理解と協力もあって、実のあるセミナーの実施やネットワークの構築が進んでいるようではある（一部のコアメンバーが、少しフェードアウト気味ではあるが？哀笑）！最近は、それに合わせて、「教育協働への道」の執筆？も続けているが、果たして、どのくらいの人が、それを読んでくれているのか？全体の「閲覧カウンター」の数は、一応順調に？増えているのであるが、誰が、どの記事（ページ）を、どのくらい読んでいるのかは、残念ながら分からない！双方向のやり取りを望んでいるのであるが、今はまだ（ひょっとしたら、これからも？笑）、一方通行のそれである⁉

ところで、一方では、嬉しいことに、年明けには、「教育協働アカデミー」の発展形態として、教え子のY君（N市OM小学校長）の勤務する学校で、当該学校のCS（学校運営協議会）の拡大版と位置付けて、我がアカデミーとのコラボ事業を実施することになった（その後の情報によると、さらなる朗報もある！）！今後とも、このようなコラボ事業が波及していくことを望んでいるが、如何せん相手側の事情が、いつ変わるかも分からない（もちろん、こちら側の事情も？）⁉人事異動等の壁？があるということであるが、ある意味、それはそれで仕方がない！でも、こうしたコラボ事業は、そこに思いのある人達がいるのであれば、どこであっても、それは実現する⁉それを信じてやるのみである（笑）！

ということで、こうしたコラボ事業が、今後どのように推移していくのか？まさに、楽しみでもあり、また不安でもあるが、我がホームページの作成と連動させながら、今後とも頑張っていく所存である！一人でも多くの理解者と参画者が増えることをさらに期待しているが、果たしてどうなるかである⁉（井上）☜

○こちらは、国際政治の不条理（脆弱？）に立ち向かう？

ということで、こちら（堂本）の方でも、この一年を振り返ってみると、様々なことを取り上げてきたように思う！ただし、思い（杞憂？）は、常に人々の悲惨（ウクライナ／パレスチナ（ガザ地区）等）にあった！どうしてこんなことになるのか？国際政治の不条理（脆弱？）と言えばそれまでだが、本当に心を痛めるばかりである！大国？の傲慢さには、ほとほと呆れるが、それに翻弄されている、世界の多くのか弱き？国々（人々）は、それでも健気に生きている（そうでない国／人々も、もちろんいるようであるが！）⁉そんなことを思いながらの（否、そう思うことでしか、日々の悲嘆を乗り越えることが出来なかった？）、一年であった！

だが、そうは言っても、そこでは、それぞれの国／人々の、まさに「今を生きる／そこに生きる」という意味での、「真実への直視」と「覚悟」ということが、否が応でも抉り出されてきたと言えるであろう⁉つまり、これまでを覆っていた「曖昧さへの埋没（現実逃避？）」や「事なかれ主義（他者任せ？）が、最早許されないというところまで至っているということである！それがまた、これまでとは違う人々の動きを出来させてもいるということである（実際は、まだまだということではあるが？）！

例えば、最近では、大地震、戦争、パンデミック等の大きな不安がある中で、これまでとはいささか異なる？政治の流れ（「リベラル」の悲運？）が進行しているとも言える！何とかして、こうした不安ややるせなさ感を払拭したい！新たな政治勢力に、そうした希望を託したい！そのように思う人（とりわけ若者達？）が増えているということである⁉とにかく、そこには、新しい時代の到来を予感させるものがあるということであるが、それが、我々（我が国）にとってどのような変化を招来させるのか？これもまた期待と不安が交錯しているとも言えるが、そこには、以前にも述べた「知ってしまったが故の宿命？」、それがあるようにも思える⁉だが、いずれにしても待ったなしである⁉

○改めて、日本とは何か？日本人とは何か？

ところで、上記と関連して、これからの日本は、外国人居住者、移民・帰化人の増大は不可避である（様々な要因があるが！）！今更ながら（何度も言うが！）、今年ほど、国（家）とは何か？国民とは何か？を考えさせられたことはないが、このこともまた、そのことに大いに関係してくる！実は、これは、我が国の古代史探求においても妥当するが（「倭国」とか、「日本（国）」とかということであるが）、これが、どうにも気になって仕方がないのである！しかし、それは、ある事実には忠実でなければならない？どういうことかと言うと、その時々には、ある一つの実態（体）があるということである！つまり、そこに生きる人々は、あるが儘の体で、そこに生きているということである（国とは何か？国民とは何かというようなことを、さほど強く意識して生きてはいないということ！）⁉ましてや、国境などはなかった時代はなおさらである！だが、今は違う！それぞれが「自国」を形成し、それぞれで承認し合う！その相互の関係において、自らが何者であるのかを示すことが不可欠となる！

〈短歌に託して～振り返る「我」を見つめつつ～〉

・普段は忘れている？　家族や知己の存在
**　絆や縁は移ろうも　無くなりはせず！**

・思い出したくない過去？　だがそれも
**　今となっては　すべてが貴重⁉**

・教育協働研究所　名乗ってはきたが
**　その成果は？　今後も続く悪戦苦闘（笑）？**

・国際政治の不条理（脆弱？）！
**　だが最早　ただ嘆くばかりではいけない！**

・いずれ問われる！　「日本」とは何か？
**　「日本人」とは何か？　まさかそんな時代が？**

〈特別コーナー～堂本彰夫の古代史旅枕６６～〉

○突然だが、ここで「高天原神話」を探る？－その６－

さて、そもそも、「大国主命」とは何者なのか（しかも、夥しい別名がある！）？もちろん、かの「出雲大社（杵築大社）」に祀られる、まさに「出雲族（国津神）」を代表する神（人物？）とされるが、その素性、その事績は、意外にも？明確ではない（素戔嗚命の後継者であり、その名も、同神より授けられてはいるが？）⁉ここでは、かの有名な「因幡の白（素）兎」の話（『古事記』にのみ記載！）も気になるところであるが、やはり、その全体としての「国つくり」、そして「国譲り」のことを考えてみたい。「記紀」では、義父「素戔嗚命」によるいじめ（試練試し？）を脱出して、正妻の「須勢理毘売（スセリビメ）（素戔嗚命の娘）と一緒に？「国つくり」を行い、だが最後には、いわゆる「天孫族」に「国譲り」を迫られ、自らは、幽界（出雲大社）に退くという流れになっているが、実は、そもそも彼が、どこから現れたのかは判然としないのである（しかも、彼は、素戔嗚命の「6世孫」という位置づけもある？）！

ただし、もちろんここでは、この「大国主命」の全容を述べることが目的ではない（そもそも不可能でもある！）。要は、彼によって成し遂げられた「国つくり」、そして「国譲り」が、実際は、どういうことを指しているのかを考察してみることが重要であるということである！単純に捉えれば、「素戔嗚命」の権力基盤を受け継ぎ、それを拡張・拡大した（「国つくり」）。そして、それを、天孫族（天津神）、直接的には「フツヌシ（→物部氏）」と「タケミカヅチ（→尾張氏、その後中臣氏？―実は藤原氏？）によって奪われた（「国譲り」）ということを指していると思われるが、それは、あくまでも「象徴」であって、特定の事件や武力対峙を意味するものではない⁉

いずれにしても、問題は、全体の構図を理解することが重要であるということであるが、そこ（出雲大社）に、筑紫「宗像」との関係（「筑紫社」（タギリヒメ＋三女神の長女？）があることが、大いに注目されることは言うまでもない！また、大和の「大物主」と同一人物（神）ともされているようであるが、ここもまた、さらなる精査が必要であることは言うまでもない！ただし、それによって大きな史実の輪郭は描ける⁉（つづく）　（堂本）

〈編集後記〉 今回は、一応「一年」を振り返ってみたが、やはり総体では、変わらずの一年であったようにも思われる（様々な出会いや出来事があったことは事実であるが！）⁉いつまで続くか分からないが、来年もまた然りであろう⁉　（井上／堂本）